

第 1 回 協働のまちづくりのあり方検討会

— これまでの成果と課題を、次の10年につなげる —

2026年（令和8年）7月23日（木）

明石市 市民生活局 市民協働推進室

コミュニティ・生涯学習課



明石市で「協働のまちづくり」が始まってから10年が経過しました。

第1回会議では、この10年間で生まれてきた成果、その中から見えてきた課題を整理します。

その上で、これからの「協働のまちづくり」を考える出発点にしたいと思います。

<第1回目のゴール>

＼ 1 ／

成果と課題について、
納得感のある整理に
なっているか？

＼ 2 ／

ほかに加えるべき
成果・課題はあるか？

＼ 3 ／

次の10年に向けて、
大切にしたいことは何か？

Slide 02 | なぜ今、協働のまちづくりを見直すのか？

① 協働のまちづくりがスタートして10年、まちづくりの基盤が整ってきた

明石市協働のまちづくり推進条例の施行以降、小学校区を単位としたまちづくりを中心に、地域で話し合い、活動につながる取組が広がってきた。

② 一方で、今までと同じ進め方だけでは、続けにくくなってきた

担い手不足、負担の集中、役割の固定化、地域課題の多様化などにより、これまでどおりの進め方だけでは、まちづくりを続けていく難しさも見えてきている。

③ だからこそ、これからのまちづくりの進め方を見直す必要がある

この10年でできてきた基盤を生かしながら、多様な人や団体が関わりやすい、これからの協働のまちづくりのあり方を考える時期に来ている。

この10年で整ってきた基盤を生かし、多様な人や団体が関わりやすい
これからの協働のまちづくりを考える。

この10年で生まれてきた成果

成果①：対話を重ねることで、地域課題に応じた活動につながってきた

成果②：活動がつながり、協働の実践と共創の芽が出始めている

成果③：まちづくり以外の分野でも、地域に関心を持つきっかけになってきた

見えてきた課題

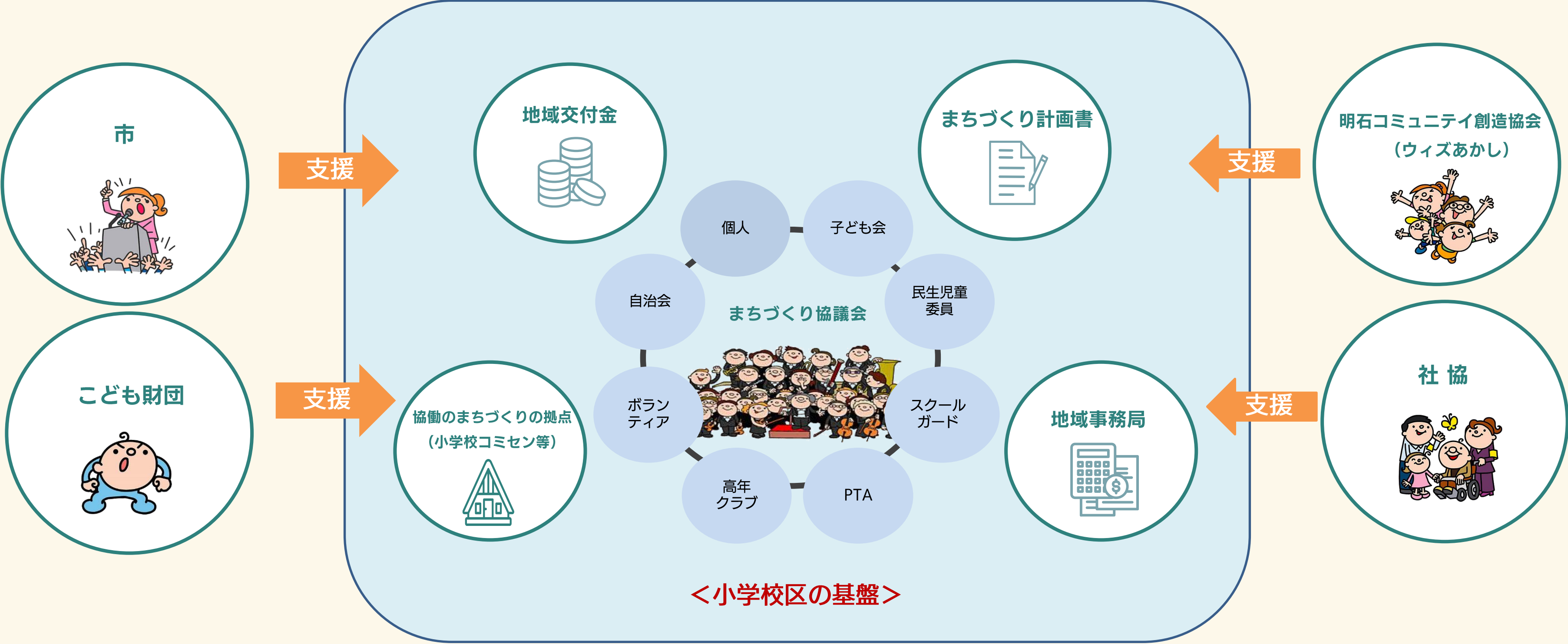
課題①：活動を支える人が限られ、活動の継続に不安がある

課題②：各分野の取組が、地域の中で見えにくく、つながりにくい

課題③：関わりたい人と活動が、つながりにくい

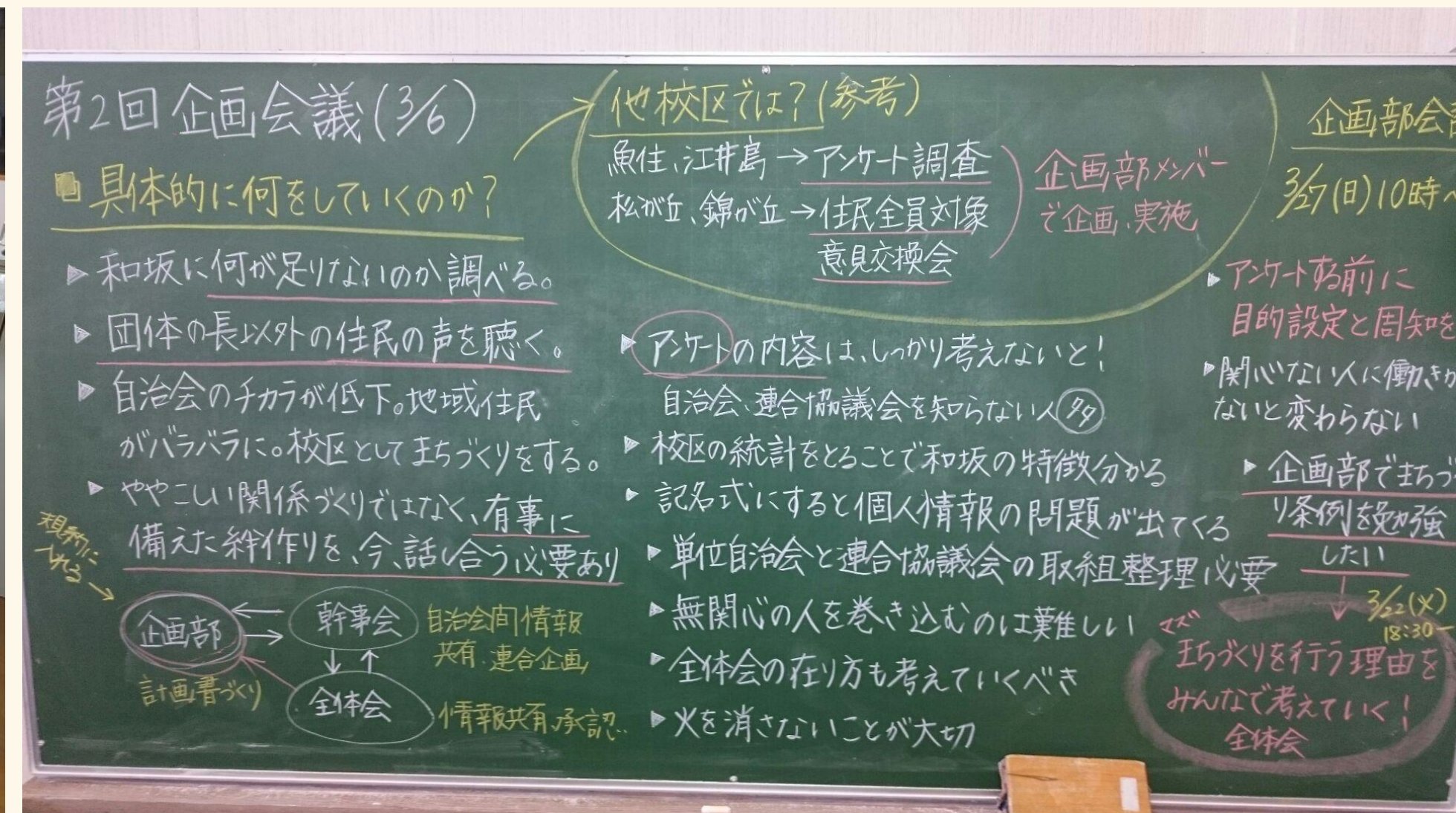
第1回会議では、この整理が納得感のあるものになっているかを確認する。

Slide 04 | 地域の活動を支えてきた基盤



小学校区のまち協を中心に、市やさまざまな支援機関が関わりながら、地域の活動を支えてきた。

Slide 05 | (成果①) 対話を重ねることで、地域課題に応じた活動につながってきた



まちづくり計画書づくりをきっかけに、地域で話し合い、課題や想いを共有する場が生まれてきた。

(27/28校区で、まちづくり計画書が完成)

Slide 05-1 | （成果①）対話を重ねることで、地域課題に応じた活動につながってきた

<組織体制のBefore／After>



これまでの祭りや行事を中心とした体制から、
地域の困りごとに応じた活動につなげる体制へと変わってきた。

Slide 05-2 | （成果①）対話を重ねることで、地域課題に応じた活動につながってきた

安全・安心 防災マップづくり（まちづくり大観地区協議会）



福祉 ふれあい喫茶（中崎まちづくり推進会）



こども こども夢文庫（江井島まちづくり協議会）



広報 広報紙（各まち協）



対話をきっかけに、地域課題に応じた活動が小学校区ごとに広がってきた。

Slide 06 | （成果②）活動がつながり、協働の実践と共創の芽が出始めている

団体同士が協力する

小学校区を越えて協力する

市民と行政が一緒に取り組む

多様な主体が関わり、新たな価値を生み出す

一つの団体だけでは難しいことも、つながることで、可能性が広がっている。

Slide 06-1 | (成果②) 活動がつながり、協働の実践と共創の芽が出始めている

<団体同士が協力する>



買いもん行こカー

(和坂校区まちづくり協議会 × コープこうべ)



こども食堂

(こども食堂しまっこ (江井島) × 神戸学院大学)

団体同士が思いを持ち寄ることで、地域の困りごとに応える活動につながっている。

Slide 06-2 | (成果②) 活動がつながり、協働の実践と共創の芽が出始めている

＜小学校区を越えて協力する＞



あかしまちづくり懇談会（事例発表＆交流会）

（明石市連合まちづくり協議会 × 市 × 明石コミュニティ創造協会）

※ 明石市連合まちづくり協議会は、全てのまち協の連合組織



みんなのひらめき交流会

（魚住・錦浦・錦が丘の3まち協 × 分野型市民活動団体 × 個人 × 明石コミュニティ創造協会）

小学校区を基本にしながら、課題に応じて小学校区を越えて
協力する動きも生まれてきている。

Slide 06-3 | (成果②) 活動がつながり、協働の実践と共創の芽が出始めている

＜市民と行政が一緒に取り組む＞



避難所開設訓練
(魚住まちづくり協議会 × 市)



SP21 (あかし健康ソムリエプロジェクト)
(あかし健康ソムリエ会 × 市)

市民や団体のつながり・専門性と、行政の支援を組み合わせることで、
各々だけでは届きにくい課題に協働で向き合ってきた。

Slide 06-4 | (成果②) 活動がつながり、協働の実践と共創の芽が出始めている

＜多様な関わり、新たな価値が生まれる＞



【新たな価値】

- ・ 住民、団体、事業者がつながるきっかけ
- ・ 地域に新たな交流やにぎわいを生み出す場
- ・ 地域資源の再発見と活用（例：空き家の利活用）
- ・ 地域への関心や参加の入口

明石新浜軒先マルシェ

（まちづくり大観地区協議会 × 明石浦漁業協同組合 × 一般社団法人すまい研 × 一般社団法人neo-wave）

対話と協働を重ねることで、地域に新たな交流やにぎわいが生まれ、
共創につながる芽が出始めた。

Slide 07 | （成果③） まちづくり以外の分野でも、地域に関心を持つきっかけになってきた



科目別コース アンサンブル学科
（あかねカレッジ（高齢者学習））



明石北高生によるスマホ教室「防災を学ぶ」
（大久保北中コミセン）



コムスク 2年生生活科「まちたんけん」
（鳥羽小学校）

ウィズあかしやあかねカレッジ、中学校コミセン、コミュニティ・スクール（コムスク）などが、
学びや交流の場となっている。

すぐに活動につながらなくても、地域への関心や参加のきっかけになりつつある。

Slide 08 | 成果が広がったからこそ、次のステージの課題が見えてきた

<成果①>

対話を重ねることで、地域課題に応じた活動につながってきた



<課題①>

活動を支える人が限られ、活動の継続に不安がある

<成果②>

活動がつながり、協働の実践と共創の芽が出始めている



<課題②>

各分野の取組が、地域の中で見えにくく、つながりにくい

<成果③>

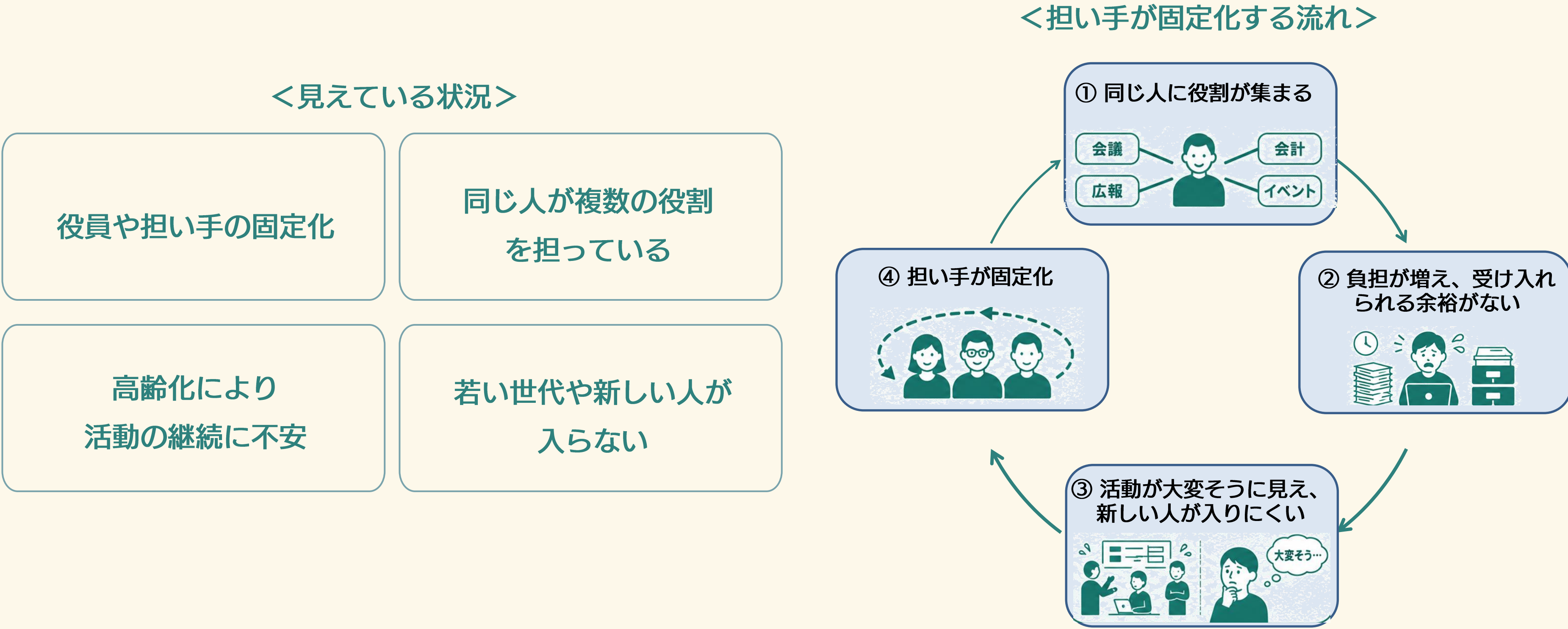
まちづくり以外の分野でも、地域に関心を持つきっかけになってきた



<課題③>

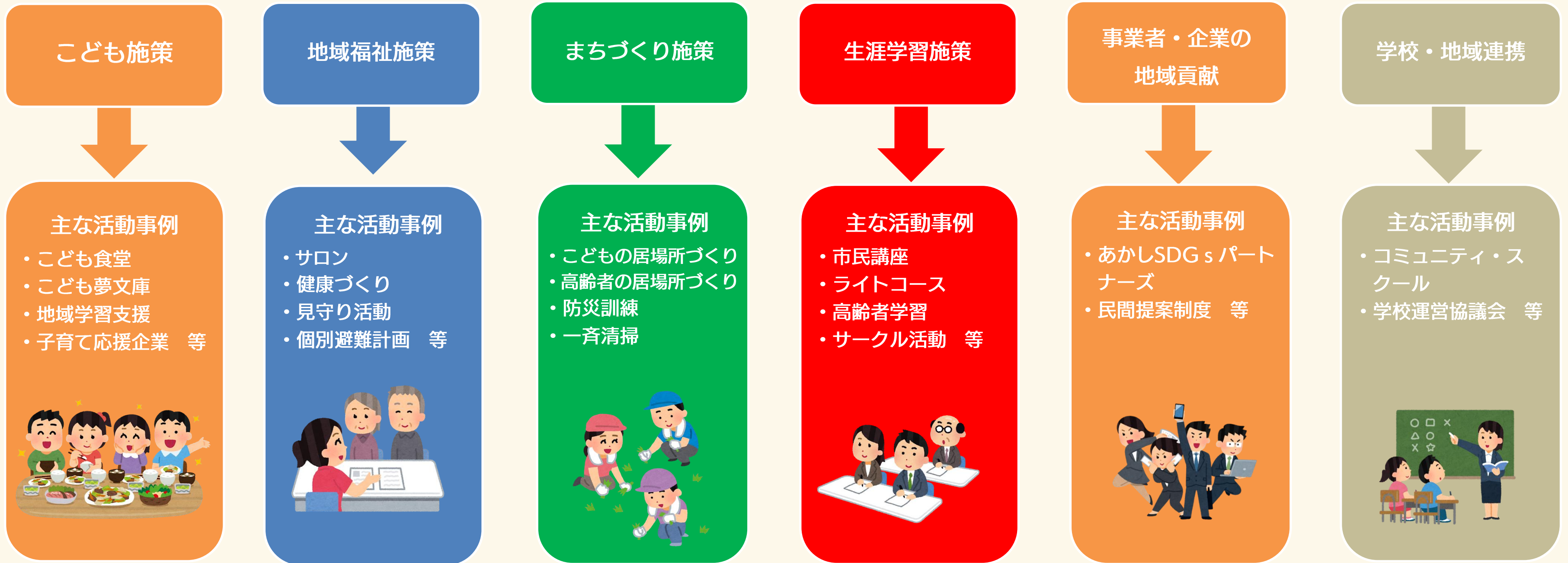
関わりたい人と活動がつながりにくい

成果が広がってきたからこそ見えてきた課題であり、次の10年への論点である。



活動が広がったからこそ、準備・調整・運営を担う人の負担も増えやすくなっている。
育ってきた活動を無理なく続けるために、支える人をどう広げるかが課題である。

Slide 10 | (課題②) 各分野の取組が、地域の中で見えにくく、つながりにくい

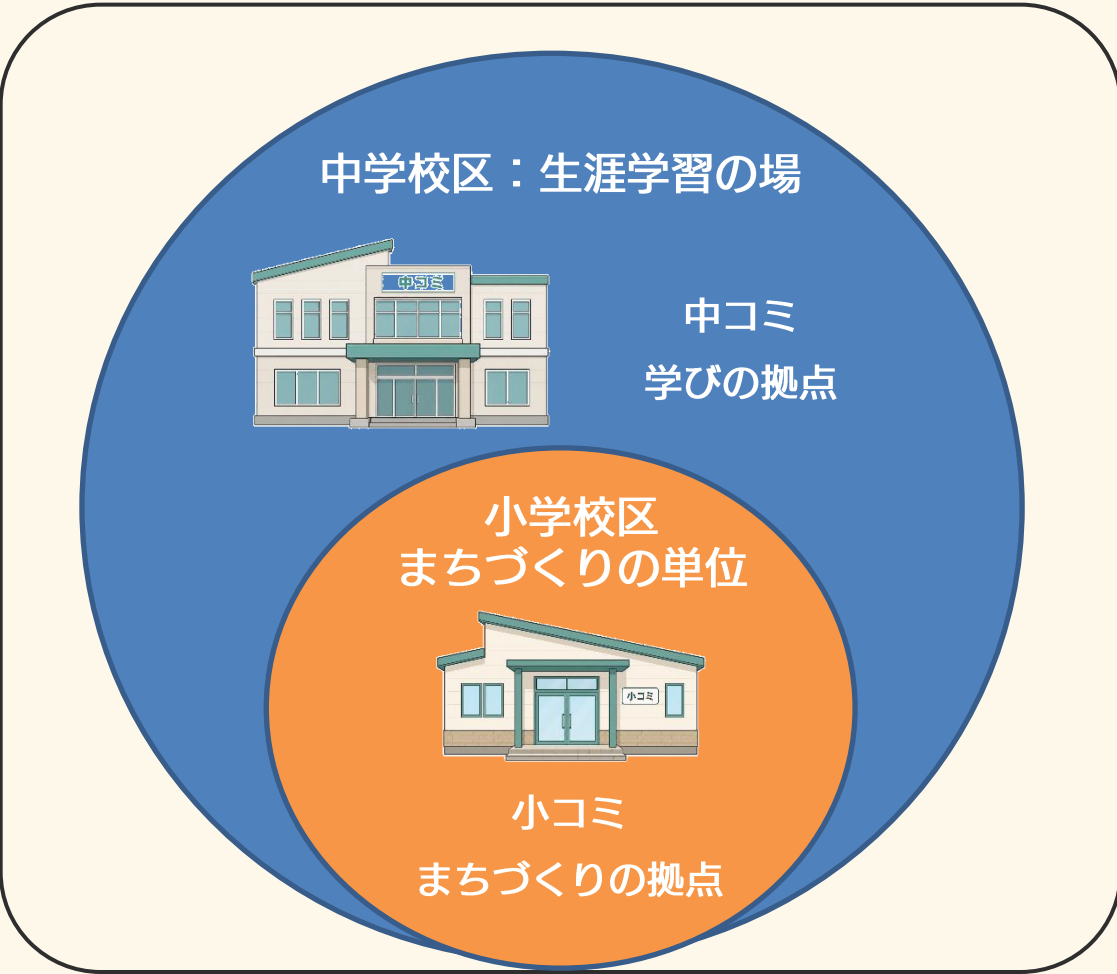


こども、福祉、まちづくり、学びなど、地域の中にはさまざまな取組がある。
しかし、それぞれの情報が分かれているため、どこで誰が何をしているのかが見えにくく、
必要な人や団体につながりにくい。

<学びの場>

学びが活動につながりにくい

講座などで関心が生まれても、活動や団体につながる導線が弱い。



<ボランティアマッチング制度>

ボランティアしたい人はいる

情報提供だけでは団体や活動とのマッチングが難しい。

現在200人以上が登録



<まち協住民アンケート>

地域に関心ある人は多い

地域に関心があっても、既存の活動や団体に出会えていない人がいる。

まち協	協力できると回答した人数	アンケート実施日
和 坂	114名	2016年
大久保	350名	2020年
山 手	262名	2021年
沢 池	140名	2025年
王 子	125名	2025年
明 石	171名	2025年

関心ある人を、その人に合った活動や団体につなぐ仕組みづくりが課題である。

- ① 成果と課題の整理は、納得感のある整理になっているか？
- ② ほかに加えるべき成果や課題はあるか？
- ③ 次の10年に向けて、大切にしたいことは何か？（第2回会議に向けて）

Slide 13 | 次回以降の議論の流れ

令和8年
7月23日

第1回：これまでの成果と課題について
この10年で見えてきた成果や課題を整理する。

令和8年
9月29日

第2回：次の10年に向けて、どのような協働のまちづくりを目指すのか
第1回で整理した成果と課題を踏まえ、これからの協働のまちづくりで何を大切にするかを考える。

令和8年
12月頃

第3回：小学校区単位のまちづくりのあり方
第2回で整理した考え方を踏まえ、まち協の役割や地域を支える仕組み・支援を考える。

令和9年
2月頃

第4回：提言まとめ
次の10年に向けた方向性を整理する。

第1回で確認した、成果・課題・視点をもとに、次回以降、次の10年に向けた方向性を深めていく。